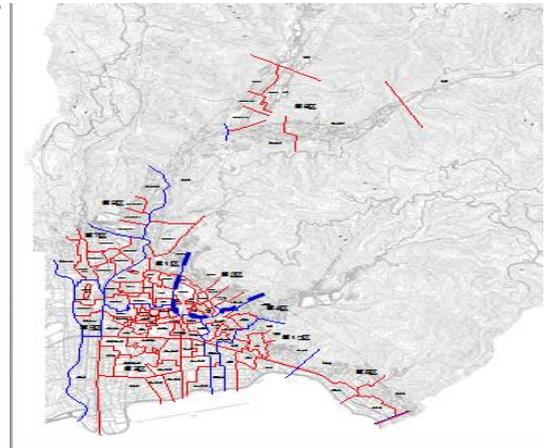


第二区（長野県下諏訪町）

1. 第二区の概要

(1) 地域特性

- ・人口 1,800 人、世帯数 600 世帯、面積 2km² 高齢化率 35%
- ・急峻な地形から、急傾斜が緩やかになる場所で溢水被害が多発する地域である。
- ・平成 26 年 7 月にも豪雨により床下浸水の被害が多く、民家で発生している。
- ・地区では、「ふれあい広場秋宮スケートリンク」を避難場所としている。
- ・地域の土質がもろく、土砂災害時に避難場所がない。
- ・大雨では地域の一部が浸水する。



下諏訪町第二区の位置図

(2) 過去の災害履歴

- ・昭和 56 年から昭和 58 年にかけて、集中豪雨、台風による影響で諏訪湖周辺が浸水
- ・昭和 59 年に長野県西部地震発生
- ・平成 18 年に集中豪雨で町内小河川、承知川氾濫及び諏訪湖周辺が浸水

(3) 想定災害

- ・台風や集中豪雨に伴う土砂災害
- ・一級河川砥川の洪水被害

2. 第二区における従来の取組状況

(1) 従前の防災活動、訓練の実施

自主防災会の役員を始め、災害への関心度が高く、地区住民に対して、災害時の避難等について日頃より意識啓発を行っている。

(2) 検討体制の整備

平成 27 年 2 月に、自主防災会会長、区議会議員、町内会会長等の地区の役員にてプロジェクト会議を行った後、3 月に「地区防災計画策定委員会」を設置した。

3. 第二区におけるモデル地区採択後の実施状況

(1) 第二区の住民ワークショップ

第二区の役員により、過去の被害履歴から被害を受けた場所を地区の防災マップにプロットし、地区の危険個所を図示した防災マップを作成した。



(2) 防災講演会の実施

静岡大学地震防災総合センター副センター長の牛山素行教授より、「地域を知り、防災を考える」と題して、講演会を開催した。

講演会では、下諏訪町で想定される災害とその対応について説明された。



(3) 現地調査

ワークショップで作成した防災マップを基に、第二区の役員及びアドバイザーの東京大学小出教授の代理である(一財)都市防災研究所 守 上席研究員の参加により、防災まち歩き(現地調査)を実施し、危険個所の状況を把握した後、地区の防災マップ「土砂災害防災マップ」を作成した。



過去に水害が発生した場所

(4) 留意点

第一区と同様に、雨量計をスマートフォンでモニタリングできるシステムを NTT ドコモの協力で導入し、雨量が 40mm/時に近づくと自分で避難判断できる仕組みを作るとともに、遠方避難をすべきか近傍の 2 階へ避難すべきかを瞬時に判断し、情報共有を行う。

(5) 問題点・課題及び解決策

<地区における課題>

危険箇所の洗い出しの際に、生命の危機に関する危険箇所と、生命の危機は無いが、床下・床上浸水等により資産等が被害を受ける危険箇所と混同し、同列に議論されてしまう。

<解決方法>

説明の際に、災害の大きさも意識した表現をするように伝えるとともに、マップ等の制作物への表現については、災害の違いが明確に分かるようなデザイン面での工夫を行った。

<行政における課題>

実施主体はあくまで住民であるが、行政としての関与の仕方を間違えると、行政からの「押しつけ」的に捉えられてしまい、住民理解が進まない状況が出そうになった。

<解決方法>

一般の住民の方々への説明の前に、役員等との十分な協議を行い、各区における物事の決め方のルールや重要視する点などを理解した上で、対応を行った。

4. 成果及び今後のスケジュール

平成 27 年 3 月 第二区（東町中地区）土砂災害防災マップを作成、住民説明会を実施

平成 27 年 5 月 第二区東町中地区避難訓練を実施予定

